

## 第79回 研修会報告

### 《 内 容 》

日 時：1996年7月17日(水) 10:00～16:00  
場 所：県立尼崎病院2F会議室  
参加費：1000円 非会員1500円

### プログラム

1. 開会挨拶 県立尼崎病院院長  
牧野 尚彦  
図書室紹介 熊井亜由美
2. 病院図書室日常業務の検証  
大阪府立母子保健総合医療センター  
徳田 雅子
3. 図書館司書の役割と専門性  
三苦 正勝
4. 臨床工学士(CE)  
大阪府立母子保健総合医療センター  
澤村 正浩
5. まとめの報告  
社会保険神戸中央病院  
林 伴子

参加者：21名(会員18名 非会員3名)

### 《 報 告 》

まず、病院図書室業務の検証について、徳田雅子氏から自身の経験を元に苦労したこと、改善されたことを、病院図書室の立場で司書の役割を中心に語っていただいた。担当者が目指すところは、職員が職務を全うするため必要な情報を引き出せる状態にしておくことである。担当者の存在が、少なくともその道筋を暗くしたり、遮断したりすることがないように最善を尽くすことなど、司書のポイントを語られた。

次に、公共図書館の司書として活躍されている三苦正勝氏に司書の本質、役割について講演していただいた。図書館とは、情報提供

の情報館であると同時に、利用者にとって身近な存在で居心地の良い場所でもある。公共図書館は社会教育の現場であり、社会福祉の一端を担っていることを報告された。

また、司書の資質、能力として、1) 図書館が何をすべきか信念を持っている、2) 本が好きで、本を知っている、3) 本を読む人を知り助ける、4) 図書館の業務について一定の水準を保っている、などが大切であるとのことであった。そして最後に、司書と利用者との信頼関係が何よりも大事であると結ばれた。

今研修会から利用者をより良く知るために、我々図書室職員にはあまり馴染みのないメディカルスタッフの方々からお話をうかがうことにした。今回は、澤村正浩氏より臨床工学士について語っていただいた。

臨床工学士(CE)とは、医用電子工学機器の利用や保守管理にとどまらずに臨床的な技術提供を行うものとされ、欧米ではME技術者をも統括管理する病院内の管理者として位置付けられているものである。日本では、まだその存在が十分に認識されていないが、進んだ医療現場では臨床業務の忙しい看護婦、医者が行わなくても、工学・医療の知識を身につけた臨床工学士が行うことで適切な医療機器の提供と安全を保障されているとのことであった。

これからの医療では専門職が細分化され、より高度な知識を要求されると言えよう。

(文責：井川美幸)